

# ★平成17年のトピックス★

## ☆初めてのバイキング



○栄養管理科では9月29日（4病棟）、10月27日（5病棟）、12月1日（6病棟）に当院では初めて、入院の患者様を対象にバイキングによる昼食を実施しました。

○メニューは、主食（ご飯類）5種類、主菜（肉料理・魚料理等）5種類、副菜（野菜料理）6種類、デザート4種類。この中から患者さんが自分の適量を考えながら、組み合わせて取っていただきました。

患者さんには「いつもと違った気分で、大変おいしくいただきました。」と大変好評でした。

## ☆県立日南病院子どもスケッチ大会の開催

○10月12日（水）第3回子どもスケッチ大会を開催しました。今回は日南市立油津小学校5年生66人のみなさんに参加していただきました。

生憎の曇り空でしたが、みんな目前の病院の描写に一生懸命。

○優秀作品36点を11月27日（日）から12月9日まで当院エントランスホールに展示しました。



## ☆女性専用外来「わかば」がオープン

○当院では、10月21日（金）女性専用外来「わかば」を開設、診療を始めました。4月に開設した県立宮崎病院に次いで県内2番目です。

○毎月第3金曜日午後1時～4時まで診療します。

○担当は宮崎大学医学部附属病院産婦人科の米田由香里医師です。



○完全予約制で、診察日の2か月前から2日前まで受け付けます。  
申し込みは、女性専用外来予約センター  
（電話0987-23-8011）まで  
お願いします

## ☆「健康相談室」の開設

○11月1日（火）、看護科はエントランスホール（1階）エスカレータ横に患者様やご家族の方々のための「健康相談室」を開設しました。これは、外来の患者様から「待ち時間が長い」という意見が数多く寄せられることから看護科が待ち時間対策の解決方法の1つとして、試験的に取り組むことにしたものです。



開設期間は平成18年3月末日まで、開設時間は午前9時30分から11時30分までの2時間で、看護師長が相談に応じます。

「病気のことはもちろん、子どもの教育から恋愛相談までなんでもOK。」と看護師長さん達。

## ☆「外来化学療法室」の開設

12月12日（月）に、ガン患者様の安全確保のため、旧精神科診療室に外来化学療法室（ベッド数6床）を開設しました。

## ◇賑わった第7回「県立日南病院祭」

11月27日（日）地域のみなさんとの交流を深めることと患者様へのサービス向上をねらいとして、「県立日南病院祭」を開催いたしました。本年も。地域のみなさん、宮崎大学医学部や日南学園看護学科・日南看護専門学校のみなさんにご協力をいただき、例年以上に盛り上がりを見せた病院祭となりました。入院・外来の患者様やその家族のみなさん、地域のみなさんにご来場いただき、たくさんの方から「楽しく、ためになった。」「また、来年もやって欲しい。」などお礼や励ましの言葉をいただきました。

【宮崎大学医学部のみなさんの企画展】



日南カトリック幼稚園児のマツケンサンバ



天翔の獅子舞



病理学展



検診コーナー



アロマセラピー



病院食を食べよう



医療機器展示



フリーマーケット



物産展

## なんぷう雑感

# 「日出る処・・・」

副院長 春山 康久

通勤で国道220号線を利用しているが、青島バイパスの南半分が開通し、堀切峠まで一気にたどり着くことが出来るようになった。谷間の多い地形で、6つの橋がある。左手に青島の街並みを見ながら、新たに開通したバイパスを走る。右に穏やかにカーブすると左手に戸崎鼻を見下ろし日向灘が一望できる。1月のこの季節、日の出時刻は7時を過ぎた頃でバイパスを通過する時刻と日の出の瞬間が丁度重なる。まさに「日出る処」である。この眺めは絶景である。まず、水平線の空が明るくなり、周りを朱色に染める。次いで海面がきらきら輝き始める。そして太陽は一気に昇りきる。さらに車を走らせ青島トンネルを過ぎ、南へ坂を登り詰めると突然視界が開け太平洋と波状岩の織りなす雄大な風景に遭遇する。堀切峠を過ぎると、左手に真っ青な太平洋が眼下に広がる。わずか数分のドライブであるが贅沢な時間である。



[Back](#) [contents](#) [next](#)





## 「病診連携って何？」

地域医療連携室／医療相談室

最近ニュースや新聞誌上などで「病診連携（びょうしんれんけい）」という言葉を目や耳にする機会が多くなってきました。

でも一般市民の皆さんには「病診連携」の内容はほとんど知られていないのが現状だと思います。「病診連携」とは、病院と診療所（クリニック）が手を携えて患者さんの診断治療を行っていくことと簡単にまとめることができます。例えば糖尿病の患者さんは、日頃は自宅の近くのかかりつけ医を受診し、お薬をもらったり生活指導などをうけ、年1回の精密検査をかかりつけ医の紹介で大きな病院で行うといった具合です。両者がより密接に連携していることを示すために「二人主治医制」という言葉で表現することもあります。

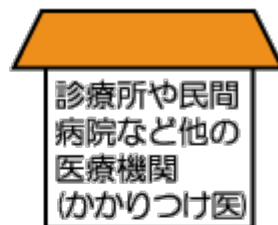
ではなぜ今このような取り組みがすすめられているのでしょうか。一昔前は肺炎などに代表される感染症が主な死因でした。その場合は病院で入院治療し、治れば退院後に診療所にかかることはありませんでした。つまり病院ですべてが終わる「病院完結型医療」でした。ところが近年の三大死因は癌、心疾患、脳疾患、となりました。これらの病気の多くは生活習慣病（糖尿病、高血圧、肥満など）をベースに発症するものです。例えば糖尿病の人が脳梗塞を起こして入院治療すれば、退院後もリハビリや糖尿病の治療を続けていく必要があります。このように重症のときは専門的な治療が出来る病院で、そして症状が安定しているときは身近な診療所（かかりつけ医）が治療を続けるという対応が適当な疾患が多くなってきました。そこでそれぞれの医療機関の役割分担をきちんとして患者さんの治療を行うというのが「地域完結型医療」の基本的な考えで、それを実施するためには「病診連携」の推進が必要なわけです。

最初からずっと大病院にかかっていたらいいじゃないかと思われる方もあるでしょう。でも病院の医師の数には限りがあります。重症の入院患者さんの治療をする一方で外来患者さんが多数受診されますと、外来患者さんの待ち時間は長くなる、一人あたりの診察時間は短くなる、入院患者さんの治療が遅れがちになる、医師は疲弊してしまうなどの問題が起こります。限りある医療資源を有効に活用するという視点からも病診連携は求められています。

病診連携をスムーズにするためには、病院と診療所間の情報交換が重要な鍵となります。そこで昨今大きな病院には両者をつなぐ専門部署である「地域医療連携室」が設置されるようになりました。県立日南病院も2003年4月からスタッフ4名で連携室を開設し、紹介状・返書のチェック、患者さんの立場にたった退院調整の実施など通じて、病診連携の推進を図り南那珂の住民の皆さんがより適切な医療をうけられるように活動しています。当院の地域医療連携室は医療相談室と併設で1階食堂前にあります。医療相談に加えて病診連携のことなどのお問合せがありましたら、お気軽におたずねください。



連 携



A医師



<2人主治医>



B医師

[Back](#) [contents](#) [next](#)

## みなさんのご意見コーナー

### ご意見 と 日南病院



総務課

当院に対し、ご意見箱や電話等により患者様や家族の方々から多くのご意見（苦情や要望等）が寄せられます。



当院では、これらのご意見に対し、関係職員が協議し、直ぐに改善できるものは改善し、改善に日数を要するものや改善の難しいものについてもその旨回答しています。

特に、ご意見箱について、回答を当院のホームページに掲載するとともに、院内2カ所に掲示しています。

当院にとって、ご意見への対応は患者様との信頼を築く上で大変重要なことと考えています。

今後とも、患者様から信頼され、満足していただける病院づくりをめざして、誠実に、迅速に「患者様のご意見」に対応していきたいと考えています。

#### みなさんのご意見への回答（平成17年9月・10月分から）

<p>○中央検査室横のトイレが汚くて、入るのが嫌でした。</p>	<p>●当院では、トイレの掃除は毎日2回定時に実施しています。トイレが汚れた場合、随時に清掃を行いますので遠慮なくお申し出下さい。</p>
<p>○子どもの食事をもっと考えて欲しい。大人と同じなので、なかなか食が進まず、「お腹減った～」と店で他のものを買わなければならない。</p>	<p>●当院における小児の食事は、幼児食（3歳未満）、小児食1（3～5歳）、小児食2（6～10歳）の区分で作っています。献立を立てるときに注意していることは、バランス、味付け、栄養量が年相応であるかどうかということです。基本的には大人と同じでも、子どもには適当でない食材（香辛野菜、繊維の固い野菜、香辛料、刺激物）等は使用していません。生活習慣病は小児期からの食習慣が大きく影響します。国内外から生活習慣病食として認められている和食を中心としたメニューをこれからも努めて数多く取り入れてまいりたいと思います。</p>
	<p>●長時間お待たせして申し訳ありませんでした。今後予約日時の配分を検討し、待ち時間の短縮に努めてまいります。また、待ち時間のお知らせについては、現在の最終受付の患者様のおおよその待ち時間をカウンターに表示するようにいたします。</p>
<p>○神経内科で待ち時間が長く（2時間）、説明もなかった。どれくらい待つのか教えて欲しい。</p>	<p>●挨拶は「自分の心を映す鏡」とも言われます。心を込めて挨拶をすることが大切だと思います。職員に対しては、日ごろから接遇研修等を通じて、挨拶の大切さや必要性を教示し、励行を指導しているところです。今後とも、指導を徹底し、接遇の改善に努めてまいります。</p>
<p>○医師、看護師さんで、挨拶のできない人が半数以上いる。院内だけでも挨拶すると気持ちが良いと思う。</p>	

◇ご意見箱に寄せられたご意見等は、ご意見の内容と対応について当院のホームページに掲載するとともに院内のエントランスホールと東玄関入口にも掲示していますのでご覧ください。

[Back](#) [contents](#) [next](#)

## 雑談～謝辞～抱負



泌尿器科医長 新川 徹

わが国で、泌尿器科が皮膚泌尿器科から独立したのは、九州大学など旧帝国大学が早く昭和20年頃でした。九州大学泌尿器科の初代教授の富川先生は昭和4年の卒業、現在の教授は4代目、昭和49年卒業で、私の同期です。

泌尿器科に対する世間のイメージは、皮膚泌尿器科の頃から性病を含めた下半身の病気を診ると言うことで良くなかったようです。家内の祖父は九州大学の2期生で、明治41年に卒業して鹿児島市の中心街高見馬場で皮膚泌尿器科を開業しました。敷地は広く、電車通りと裏通りに入口がありましたが、ほとんどの患者さんは人目をはばかり、こっそりと裏通りから入ってきたそうです。その息子達（家内の父と叔父）は跡を継がずに、外科と内科に進みました。

私は、卒業前に2代目百瀬教授や石澤助教授（宮崎医科大学の初代教授）の薦めもあり入局を決めましたが、進学や結婚など人生の重大事に何も反対せずに、私の意見を尊重してくれた両親が、このときばかりは大反対で苦労した経験があります。泌尿器科に対する世間のイメージはおおかたこのようなものでした。

さて、私事ですが、昨年6月後半から9月前半まで長期療養による休業に至りました。幸いにも体力が回復し、無事復帰いたしました。この間、各方面に多大なご迷惑をおかけし、この場を借りてお礼とお詫びを申し上げます。復帰と時を同じくして、宮崎大学から高森医師も着任し、長年の念願であった複数常勤体制となりました。柴田院長はじめ当病院の方々、県立病院課など本庁関係課の方々、長田教授をはじめとする宮崎大学の諸先生のご尽力に深く感謝いたします。復帰当初は仕事の勘も戻らず、療養中に溜まった仕事も多く、つつい無理を重ねて皆様にも心配をかけましたが、何とか体調を崩さずに済みました。11月になると、着任からフル回転で働いてくれました高森医師が環境にも慣れ、私も徐々に仕事の勘とペースを取り戻し、2人体制の効果も少しずつ出てきたように感じています。

泌尿器科として、県南地域のニーズへの対応が最も不足している分野は、尿路結石症の治療であると考えます。平成10年の新病院への移転の際に、対外衝撃波結石破碎装置（ESWL）の導入を検討しましたが、当時1億円と高額であったため、見送りとなりました。その後、宮崎市や都城市に送る症例も多く、かなりニーズがあるものと再認識しています。また、価格も急速な普及により10分の1程度に下がった機種もあり、他施設での利用状況、収支などを考慮し、機器の導入を高森医師と慎重に検討しているところです。その他尿路機能評価、前立腺生検、腎後性腎不全の対処など徐々に充実しつつありますが、より一層の努力をしなければならぬと気持ちも新たにしているところです。

**県立日南病院の泌尿器科は、平成17年9月から常勤2人体制となりました。**



(泌尿器科スタッフ)

[Back](#) [contents](#) [next](#)



## この人紹介

# ボランティア活動


“総合案内等でH13年7月からボランティア活動されている岩永さんを紹介します。74才とは思えない若さの秘訣は「加工品を食べたことがない」食へのこだわり・ミニバレー・ジャズダンス・ストレッチと健康に配慮しながら、いろいろな活動をされているそうです”




岩永恵美子さん



外来山崎副総師長と

 姉が老人ホームの職員に良くしてもらいとても感謝しました。どこかで恩返しをしたかったのでボランティアを続けているだけ。

 総合案内で気がつくことや困ることは①患者様の高齢化②外来待ち時間が長い③来られてから休診を知らせる時④きつそうな方の休むところ⑤職員の対応が悪いときなどです。

朝5時起床。炊事はもちろん朝晩に！

月～金曜日まで昼間は家にはいることはない

家は必ずかたづけてから外出

22時～23時に掃除など終り入眠

岩永さんは理想的な女性・母なのです・・・すごい。



**仲間を募集しています。時々でいいのです。難しくありません。**

連絡・問い合わせ先：県立日南病院 地域連携室（TEL0987-23-3111 内線2083 担当 中野）まで

[Back](#) [contents](#) [next](#)

# 編 集 後 記

○弊誌の内容を「病院向け」から「院外向け」とするのに併せて、平成15年1月から3年間、慣れ親しんできた名称「病院だより」を「なんぷう（南風）」と改めました。「県南から新しい風を」との強い思いのもとに取り組んだものの気持ちだけが空回りし、できあがったものを見て本当に意図したものどおりに仕上がったのか心配しています。

○本年は戌年。ドッグイヤーの名のごとく、めまぐるしい年になるのでしょうか。本年がみなさんやご家族のみなさん、そして県立日南病院にとって素晴らしい年でありますように。

(広報編集委員会)

Back contents

# 「病院だより」から「なんぷう(南風)」



新年あけましておめでとうございます。

本年がみなさんやご家族のみなさんにとって、幸せ多い1年でありますよう心から願っております。

ところで、昨年は3月に、県立病院のあり方に関する検討委員会から、「宮崎県立病院の今後のあり方について」の報告書(原案)が提出されました。これを受け、県では6月に今後のあり方に関する方針を決定し、新たな経営形態の導入や地域事情に対する診療機能の提供、患者本位の医療の提供・患者サービスの向上等について様々な取り組みが提案されました。

また、年末には診療報酬のマイナス改訂などが諮問され、病院経営を取り巻く状況はますます厳しくなっていくものと思われます。

特に、本年4月からは地方公営企業法全部適用の導入、5月からは電子カルテの導入と当院にとって大きな変革の年であろうと考えております。職員の皆様のなご一層のご尽力を切にお願い申し上げる次第です。

さて、病院通信紙「病院だより」を装いも新たに、新名称「なんぷう(南風)」として、発刊することにいたしました。本院では院内職員の情報交換、広報用として、平成8年11月に「院内だより」を創刊しました。その後、基本的に季刊発行として、38回を重ねてまいりました。

平成15年1月(29号)から名称を「病院だより」と改称して、院内だけでなく、広く地域住民の皆様にも本院の現況やあり方について知っていただくように、また、地域の皆様の声を反映させるような内容に改変いたしました。

今回はさらに内容を刷新して、院内への通知とは切り離し、住民の皆様への情報及び相互交流に重点を置いた構成記事とすることにいたしました。

新名称「なんぷう(南風)」は、「はえのかぜ」とも読み、おだやかな順風をあらわし、病院からの発信が住民の皆様との風通しをさらによくして(大風爽々)、お互いのふれあいが深くなればとのおもいです。この上ない喜びです。担当職員は本企画の発展に情熱を傾けておりますので、内容・編集に関して、ご叱正・ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

平成18年1月 院長 柴田 紘一郎

## <表紙の写真>

5階西病棟の患者さんとスタッフのみなさん。「患者さんの支えとなって一生懸命頑張ります。」と濱川主任看護師。

私たち県立日南病院の職員は、病院の基本理念や基本方針の下に、患者様のための病院づくりをめざして全力を尽くします。

### 基本理念

- 患者本位の病院
- 21世紀に根差す高機能病院
- 地域社会に貢献する病院

### 基本方針

- 患者の皆様のご権利を尊重し、信頼・満足して頂ける医療の推進に全力を尽くします。
- 常に研鑽に努め、質の高い医療の提供を目指します。
- 住民の皆様が安心して、健やかに暮らせる医療環境の実現に努力します。

